



2021年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年6月10日

上場会社名 ラクスル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4384 URL https://corp.raksul.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 松本 恭攝
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 永見 世央 TEL 03 (6629) 4893
 四半期報告書提出予定日 2021年6月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2021年7月期第3四半期の業績（2020年8月1日～2021年4月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年7月期第3四半期	22,321	34.5	519	—	475	—	340	—
2020年7月期第3四半期	16,598	34.4	△434	—	△527	—	△632	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年7月期第3四半期	11.97	10.94
2020年7月期第3四半期	△22.63	—

(注) 2020年7月期第3四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
2021年7月期第3四半期	21,759		7,930		35.0
2020年7月期	19,379		6,801		34.5

(参考) 自己資本 2021年7月期第3四半期 7,605百万円 2020年7月期 6,692百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年7月期	—	0.00	—	—	—
2021年7月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年7月期の業績予想（2020年8月1日～2021年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		non-GAAP 営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,650 ～30,150	37.9 ～40.3	110 ～190	—	720 ～800	—	40 ～120	—	60 ～140	—	2.11 ～4.91

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 2021年7月期の業績予想については、レンジ形式により開示しております。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年7月期3Q	28,615,620株	2020年7月期	28,270,090株
② 期末自己株式数	2021年7月期3Q	8,167株	2020年7月期	1,171株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年7月期3Q	28,433,598株	2020年7月期3Q	27,958,613株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2021年6月10日に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

わが国経済は、新型コロナウイルス感染症の全世界的な拡大が続くなか、2021年4月に首都圏や関西圏等4都府県を対象に緊急事態宣言が再度発令され、依然として景気の先行きが不透明な状況にあります。印刷業界においては、デジタルメディアの拡大とともに従来型の紙媒体の需要が減少傾向にあります。その一方で、印刷EC業界は潜在需要が大きく、2012年度から2019年度までの年平均成長率が10%超、また2020年の市場規模は1,000億円程度まで拡大していると想定されております（主要な印刷EC企業の財務情報に基づく当社試算によります）。国内での広告市場も年々拡大しており、2019年のインターネット広告以外の広告市場は国内全体で約4.8兆円、なかでも当社の現在の事業領域（テレビCM、交通広告、ダイレクトメール及び新聞折込）における市場規模は約2.8兆円となっております（電通「日本の広告費 2019年」に基づく当社試算）。特にテレビCMについては、わが国でもっともリーチコストが安く多くの人々に情報を届けられる媒体であることから、より多くの企業がマーケティング手法として活用できる余地が残されています。当社は、テレビCMの小ロットかつ低価格での販売、ITを用いた効果分析といった独自の価値提供を通じ事業展開を図っております。また、国内のトラック運送事業は、約14兆円という巨大な市場であります（国土交通省「物流を取り巻く現状について」2018年10月によります）。しかし、業界構造は多重下請け構造となっているうえ、車両の手配は電話・FAXでの連絡が中心であり人力に頼った運用となっているのが実態であります。当社は物流業界においてもITによる効率化を図るとともに業界構造そのものをフラット化することで、荷主・運送会社双方に新たな価値提供ができると考えております。

このような状況の中、当社は、「仕組みを変えれば、世界はもっと良くなる」というビジョンの下、主に印刷・集客支援のシェアリングプラットフォーム「ラクスル」、テレビCM・動画の広告プラットフォーム「ノバセル」、物流のシェアリングプラットフォーム「ハコベル」を運営してまいりました。

「ラクスル」では、引き続きノベルティ等の商品ラインナップの拡充とともに、主力のチラシ印刷においては「注文翌日午前中に商品が届く」といったお急ぎの印刷需要に応えるサービスを開始し、顧客の利便性向上に努めております。「ノバセル」ではテレビCMの効果分析ツールである「ノバセルアナリティクス」の機能を拡充するとともに、株式会社ADKマーケティング・ソリューションズとの業務提携を通じ、更なる顧客の獲得に努めております。また、「ハコベル」においても、登録車両台数の増加により運送キャパシティを確保するとともに、配送業務管理ツールである「ハコベルコネク」を通じ、顧客の配車業務のデジタル化推進のための機能拡充に努めております。さらに、いずれの事業でも将来を見据え、登録ユーザー数増加や認知度向上に向けた広告宣伝投資を行っております。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は22,321百万円（前年同期比34.5%増）、営業利益は519百万円（前年同期は営業損失434百万円）、経常利益は475百万円（前年同期は経常損失527百万円）、四半期純利益は340百万円（前年同期は四半期純損失632百万円）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

（ラクスルセグメント）

「ラクスル」においては、需要拡大に向けテレビCM等の広告宣伝投資を集中的に行い、新規顧客の獲得が進みリピート購入数も堅調に推移いたしました。また、継続して発注費用の見直しを図ったことで利益率の増加につながりました。この結果、売上高は15,153百万円（前年同期比21.7%増）、セグメント利益は1,635百万円（前年同期比120.3%増）となりました。

（ノバセルセグメント）

「ノバセル」においては、新規顧客の増加及び放映案件の大型化に伴い業績が好調に推移いたしました。引き続き顧客の新規開拓に注力するとともに、効果分析ツール等の提供を通じ継続利用の促進に努めております。この結果、売上高は4,735百万円（前年同期比103.8%増）、セグメント利益は112百万円（前年同期比242.6%増）となりました。

（ハコベルセグメント）

「ハコベル」においては、各企業が輸送コストの増大に課題を抱えている中で積極的な提案活動を行ったことにより、顧客基盤は引き続き順調に拡大しております。また登録ドライバー数の増加によるキャパシティの拡大にも努めました。この結果、売上高は2,215百万円（前年同期比27.5%増）、セグメント損失は43百万円（前年同期はセグメント損失317百万円）となりました。

（2）財政状態の分析

（流動資産）

当第3四半期会計期間末における流動資産は16,838百万円となり、前事業年度末に比べ1,185百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が2,546百万円減少、売上高の拡大に伴い売掛金が1,216百万円増加、前払費用が159百万円増加したことによるものであります。

（固定資産）

当第3四半期会計期間末における固定資産は4,921百万円となり、前事業年度末に比べ3,564百万円増加いたしました。これは主に、関係会社株式が3,432百万円増加、長期前払費用が172百万円増加したことによるものであります。

（流動負債）

当第3四半期会計期間末における流動負債は4,640百万円となり、前事業年度末に比べ2,234百万円増加いたしました。これは主に、買掛金が927百万円増加、1年内返済予定の長期借入金が長期借入金からの振替により975百万円増加、未払消費税等が157百万円増加、未払法人税等が120百万円増加、短期借入金が返済により40百万円減少したことによるものであります。

（固定負債）

当第3四半期会計期間末における固定負債は9,188百万円となり、前事業年度末に比べ983百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金が1年内返済予定の長期借入金へ振替わったことにより975百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産合計は7,930百万円となり、前事業年度末に比べ1,128百万円増加いたしました。これは主に、譲渡制限株式報酬としての新株式発行等により資本金が282百万円、資本準備金が282百万円増加したことに加え、株式報酬費用の計上により新株予約権が215百万円増加、さらに四半期純利益340百万円を計上したことによるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年7月期におきましては、当社ビジョン「仕組みを変えれば、世界はもっと良くなる」の実現のために成長を最重視するスタンスに変更はありません。前事業年度に最適化したコスト構造は維持しつつ、変動費を中心とした再投資を継続する方針であります。

当期においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に関して緊急事態宣言が断続的に発令されるなど、市場環境は当初想定より悪化したものの、売上高につきましては、前回発表予想を上回る前年同期比37.9%～40.3%の成長を見込んでおります。ラクスルセグメントにおいては外部環境の変化に対応し、封筒やダイレクトメール等在宅需要を取り込む商材や、新規商材のノベルティ等が成長に寄与し、当初計画を上回りました。また、ノバセルセグメントは新規顧客の増加及び放映案件の大型化により成長速度が加速し、ハコベルセグメントについても飲料・小売業界の顧客からの都市内・ラストマイル輸送が好調に推移し、それぞれ継続的に成長しております。

利益面につきましては、各セグメントにおいて売上総利益率の改善に注力し、当社企業価値の源泉である売上総利益が7,100百万円～7,200百万円となる見込みです。営業利益（non-GAAP）については、720百万円～800百万円を見込んでおり、プラットフォーム価値を高めるための再投資を積極的に行う一方、継続的な売上総利益率の改善及び生産性向上の取り組み等により、前回発表予想を大きく上回る見込みであります。なお、通期の営業利益（non-GAAP）は前回発表予想を大幅に超過することが確実であるため、第4四半期においては、来期以降の成長に向けた投資を実施する予定としております。また、当期純利益につきましては営業利益の増加及び法人税等調整額（益）の計上により、60百万円～140百万円を見込んでおります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年7月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,451,377	12,904,761
受取手形	22,915	23,526
電子記録債権	12,452	8,356
売掛金	2,157,262	3,373,272
原材料及び貯蔵品	36,983	3,367
前払費用	188,673	347,675
その他	154,246	177,970
貸倒引当金	△637	△692
流動資産合計	18,023,273	16,838,237
固定資産		
有形固定資産		
建物	207,716	208,031
減価償却累計額	△62,411	△75,248
建物（純額）	145,305	132,782
機械及び装置	751,336	751,336
減価償却累計額	△372,851	△429,201
機械及び装置（純額）	378,484	322,134
工具、器具及び備品	72,003	79,026
減価償却累計額	△41,802	△51,010
工具、器具及び備品（純額）	30,200	28,016
有形固定資産合計	553,990	482,933
無形固定資産		
ソフトウェア	297,625	312,406
ソフトウェア仮勘定	47,659	51,004
無形固定資産合計	345,285	363,410
投資その他の資産		
投資有価証券	124,256	159,218
関係会社株式	31,683	3,464,421
長期前払費用	126,665	299,326
差入保証金	174,662	140,176
長期預け金	—	12,000
投資その他の資産合計	457,267	4,075,143
固定資産合計	1,356,543	4,921,487
資産合計	19,379,817	21,759,724

（単位：千円）

	前事業年度 (2020年7月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,654,786	2,582,657
短期借入金	40,000	—
1年内返済予定の長期借入金	—	975,054
未払金	500,595	591,072
未払法人税等	30,902	151,131
未払消費税等	63,715	221,125
前受金	70,473	66,336
その他	45,273	53,197
流動負債合計	2,405,745	4,640,575
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	5,043,333	5,035,833
長期借入金	5,000,000	4,024,946
資産除去債務	104,495	105,083
繰延税金負債	24,714	22,954
固定負債合計	10,172,543	9,188,818
負債合計	12,578,288	13,829,393
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,152,347	2,434,927
資本剰余金		
資本準備金	4,959,686	5,242,265
資本剰余金合計	4,959,686	5,242,265
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△409,078	△68,868
利益剰余金合計	△409,078	△68,868
自己株式	△249	△249
株主資本合計	6,702,705	7,608,075
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10,542	△2,322
評価・換算差額等合計	△10,542	△2,322
新株予約権	109,364	324,577
純資産合計	6,801,528	7,930,330
負債純資産合計	19,379,817	21,759,724

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
売上高	16,598,202	22,321,438
売上原価	12,966,777	16,987,666
売上総利益	3,631,424	5,333,771
販売費及び一般管理費	4,066,326	4,814,088
営業利益又は営業損失(△)	△434,902	519,682
営業外収益		
受取利息	4,384	7,655
受取配当金	780	—
雑収入	3,882	8,940
営業外収益合計	9,046	16,596
営業外費用		
支払利息	21,141	24,635
社債発行費	59,414	—
投資事業組合運用損	341	690
上場関連費用	9,111	—
株式報酬費用消滅損	—	27,333
雑損失	11,216	7,872
営業外費用合計	101,224	60,533
経常利益又は経常損失(△)	△527,080	475,745
特別損失		
固定資産除却損	906	6,372
特別損失合計	906	6,372
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△527,987	469,373
法人税、住民税及び事業税	5,036	130,971
法人税等調整額	99,632	△1,808
法人税等合計	104,669	129,163
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△632,656	340,210

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2020年11月12日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として2020年11月30日に新株式の発行を行い、当第3四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ242,695千円増加しております。また、新株予約権の行使により、当第3四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ39,884千円増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において資本金が2,434,927千円、資本剰余金が5,242,265千円となっております。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症拡大の影響について）

新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済や企業活動に甚大な影響を与えており、依然として国内経済は先行き不透明な状況が続くものと推測しております。2021年4月にも3度目の緊急事態宣言の発令がありましたが、繰延税金資産の回収可能性や、固定資産の減損の会計上の見積りについては、前事業年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載した仮定から重要な変更はありません。しかし、今後の感染症拡大によるリスクの高まりにより、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間（自 2019年8月1日 至 2020年4月30日）

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	ラクスル	ノバセル	ハコベル	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	12,453,603	2,323,636	1,736,987	16,514,228	83,974	16,598,202	—	16,598,202
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	12,453,603	2,323,636	1,736,987	16,514,228	83,974	16,598,202	—	16,598,202
セグメント利益 又は損失 (△)	742,300	32,820	△317,646	457,473	28,833	486,307	△921,209	△434,902

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム構築支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△921,209千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

b. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間（自 2020年8月1日 至 2021年4月30日）

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	ラクスル	ノバセル	ハコベル	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	15,153,500	4,735,092	2,215,489	22,104,082	217,355	22,321,438	—	22,321,438
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15,153,500	4,735,092	2,215,489	22,104,082	217,355	22,321,438	—	22,321,438
セグメント利益 又は損失 (△)	1,635,412	112,427	△43,831	1,704,007	78,596	1,782,604	△1,262,921	519,682

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム構築支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△1,262,921千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

b. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

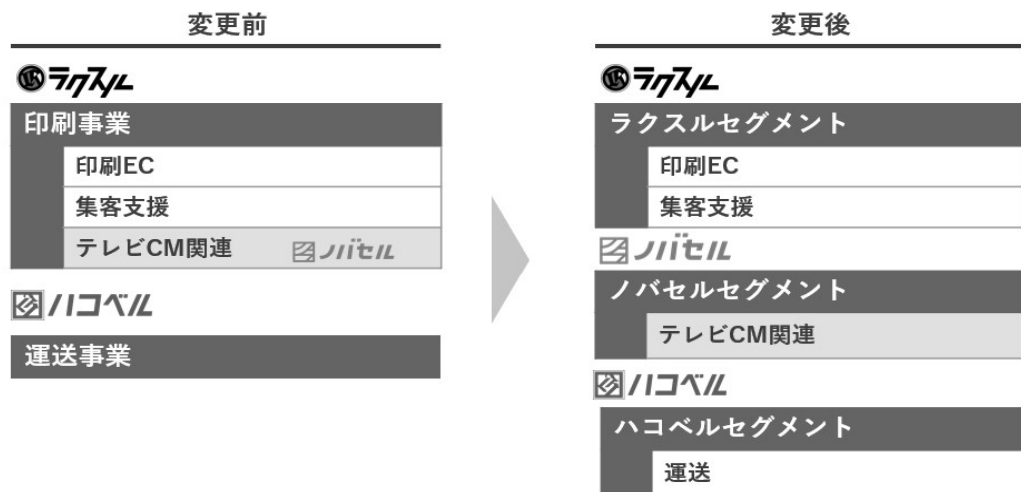
前事業年度より、事業ごとの収益性及び投資判断明確化のため、セグメント構成の見直しをおこない、当社サービスブランド名に合わせ、「印刷事業」を「ラクスル」に、「運送事業」を「ハコベル」にセグメント名称を変更いたしました。

また、これまで広告サービス事業は集客支援の一部として「印刷事業」の中に含めておりましたが、「ノバセル」として区分いたしました（以下 参考：セグメント変更のイメージ参照）。これは、新たにテレビCM広告のプラットフォームである「ノバセル」をリリースしたことで、「ラクスル」、「ハコベル」に続く新規事業として適切に表現するとともに、各セグメントにおける売上高及び利益をより合理的に認識するためであります。

この結果、前事業年度より、報告セグメントを従来の「印刷事業」「運送事業」の2区分から、「ラクスル」「ノバセル」「ハコベル」の3区分に変更しております。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分方法により作成したものを開示しております。

参考：セグメント変更のイメージ



c. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。